

略歴

氏名 神谷 元 (かみや はじめ)

現職 国立感染症研究所感染症疫学センター主任研究官

経歴

1999年3月三重大学医学部卒業、医師免許取得後聖路加国際病院小児科での研修を経て、2004年9月より米国サンディエゴ郡保健所予防接種課にて研修、勤務。2008年5月米国アトランタエモリー大学公衆衛生大学院にて公衆衛生修士取得。2008年8月より国立感染症研究所研究員、2012年3月ロタウイルスの疫学研究で博士号を取得(藤田医科大学ウイルス・寄生虫学講座)後、米国CDCにてEpidemic Intelligence Services (EIS) 研修。2014年8月より現職。

専門領域：感染症疫学、予防接種、感染症サーベイランス、小児科学

その他：日本ワクチン学会理事

日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会委員

日本外来小児科学会予防接種委員会委員

小児科専門医、社会医学系専門医・指導医

抄録原稿

「新型コロナウイルス感染症～こどもの疫学的知見を中心に～」

新型コロナウイルス（以下、SARS-CoV-2）は、2019年12月以降中華人民共和国湖北省武漢市で発生した原因不明の肺炎患者から検出された新種のコロナウイルスです。2月11日、世界保健機関（WHO）は新型コロナウイルス感染症の正式名称を「COVID-19（coronavirus disease 2019）」と決めました（以下、COVID-19）。COVID-19は日本では2020年2月1日に指定感染症に定められました。これにより、保健所において、COVID-19患者に対して積極的疫学調査（感染源のさかのぼり調査や接触者調査）の実施による感染者の詳細な情報収集が行われてきました。その結果、症状は発熱、せきなどの呼吸器症状が多く、肺炎を合併すると重症化すること、基礎疾患を持っている人や高齢者は重症化しやすいこと、周りの人へ感染させるリスクの高い行動、そしてそれを防ぐためにはどうしたらいいか、ということがだんだんとわかってきました。今回はこどものCOVID-19について、疫学的な視点から分かってきたこと、わかっていないことをお話いたします。

所属学会：日本小児科学会、日本ワクチン学会、日本公衆衛生学会など